

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20 年 7 月 1 日
事業所名	グループホーム 和合の家
ユニット名	
事業所番号	2375000375
記入者名	職名 管理者 氏名 川端 京子
連絡先電話番号	052-807-6000

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	「和気あいあいと暮らせる家」を基本理念とし、地域に根ざした「第二の我が家」を目指している。		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	理念は、一階エレベーターホールの掲示板とリビングにさりげなく掲示しているが、スタッフ一同常に意識し、理念の実践に日々努力している。		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
	ご家族には、入居時に説明しているが、年一回実施している家族との交流会でも毎年説明し、ご理解いただいている。地域の方にも運営推進会議等を通じて理念を知っていただき、関係者への周知をお願いしている。また、ホームページにも掲載している。		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
	ご近所の方から採れたての野菜や手作りのジャムなどが届けられたりするようになった。ご協力いただけるお宅には、事業所で毎月発行している「和合の家だより」をお届けしたり、ホームが外出した際にはお土産をお届けしたりして近所づきあいをさせていただいている。		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		
	毎年近所の盆踊りや町主催のお祭りに参加している。買い物や散髪も近所の理髪店やスーパーに理解いただき、利用させていただいているおかげで、地域の方との交流を深めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>権利擁護についての勉強会を全スタッフに行い、全員が制度の理解を深め、必要性を感じた場合は誰でもすぐにアドバイスや支援できる体制がとれるようにしたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>昨年は虐待防止の研修に参加する機会がなかったため、ぜひ今年度は1名でも参加して再認識したい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者が出た場合は、早急に求人を行い、採用後は業務に慣れるまで一カ月程度馴染みの職員と一緒に行動し、利用者スタッフともに不安とならないよう配慮している。職員の交代については、ホームだよりでお知らせし、ご家族にも安心していただけるよう周知している。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	愛知県グループホーム連絡協議会に加入しているため、年間を通して経験年数に合わせた研修案内があり適時参加している。併設の老健等からも研修案内があり事務室に掲示されるため、希望者は外部・内部研修ともに業務時間内に参加することもできる。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全職員が愛知県GH連絡協議会の研修に参加し、他施設の職員との交流を行い、他施設の取り組みなどを知る機会を得ている。管理者は、町内の同業者と定期的にあって情報交換をして運営の参考にしている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は年一回個人面談をしてスタッフの要望や悩みなどを聞いている。それ以外にも随時話す機会を設け、ストレスがないか確認している。また、年に数回併設施設との合同食事会があり、ストレスを軽減する機会を設けている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年二回人事考課評価を作成、運営者に報告することにより勤務実態を把握している。その結果をもとに賞与や昇給に反映させている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に管理者と計画作成担当者は、できる限りご本人とご家族にお会いして、直接話を聞く機会を設けている。特にご本人の意向は計画作成担当者が聞きその内容を記録し、入居決定後全スタッフがその情報を共有することができるため、入居直後よりその人らしく生活できるよう全スタッフが配慮している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族の意向は、管理者が十分聞きとり、ご本人の意向と合わせて記録、入居決定後ぜんスタッフがその情報を共有し、ご家族の気持ちを受け止める努力をしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>見学・相談にみえた方については、できる限り管理者が対応し、GHの理念や目的を説明している。必要があれば、担当ケアマネージャーに連絡して必要なサービスを提案したり、他施設の紹介等も行っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居までにご本人が施設を見学する機会を持っていただくよう管理者よりお願いをしている。来所されたときは、他の入居者とお茶を飲んだり、話をしたりして相互に安心できる雰囲気を作り安心してサービスが開始できるよう支援している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の皆さんには、食事の支度や後片付け、買い物、ごみ捨て、洗濯、掃除など生活全般の得意な分野で活躍していただけるよう支援している。またそれぞれが知恵を出し合いできる力を発揮し、助け合って生活出来ていることを職員も感謝しながら、家族のような関係が出来ている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員で対処できないことにご協力いただくなど、円滑に生活が送れるよう様々な提案をさせていただいている。GHが第二の我が家として位置づけられいつでも来所できる雰囲気をつくり、他の入居者にも家族のように接して下さるご家族もいる。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間を設けず、気軽に来所していただける雰囲気づくりに努めている。訪問はいつでも歓迎し、ゆっくりと居心地よく過ごせるよう食事やお茶などお誘いしてくつろいでいただいている。希望があれば宿泊もでき、ご家族との時間をゆっくりと過ごしていただくことも可能。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にも近所の方や、友人・知人の方の訪問も歓迎しており、スタッフが介入して馴染みの関係が途切れないよう努めている。また、なじみのスーパーに出かけた際、知り合いの方から声をかけて頂くこともあり。それまでの関係が思い出せるよう支援している。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	馴染みの関係が出来ると、気の合う方同士お互いの居室を訪問しあい、お茶など飲みながら世間話をしたり、休息できるよう支援している。時に利用者同士トラブルがあったときは、スタッフが間に入り関係修復に努めている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も担当ケアマネージャーを通し近況報告を頂いている。ご家族が困っていることはないかご本人が不安に思っていることはないか、必要があれば直接聞いている。ご本人ご家族には、退去後も気軽にGH訪問もしていただくよう声かけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の情報を基本に支援を開始しているが、日々の会話の中で得た希望などはその都度申し送り、スタッフ全員で情報を共有しアセスメントシートに追加している。その人個人の価値感や個性を大切にされた支援に努めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前にご本人やご家族から情報を収集し、全スタッフが把握してサービスを開始している。普段の会話の中から得た新しい情報も記録し、全スタッフが情報を共有している。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の体調や精神面の変化は必ず記録し、全スタッフが情報を共有している。日々のスタッフの気づきも大切にし、特変があれば計画作成担当者がその都度アセスメントを変更追加している。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントの結果抽出した課題について、ご本人やご家族の意向を中心に、主治医や併設施設の看護師、管理栄養士、リハビリスタッフなどにもアドバイスをいただきながら、介護計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に見直しはしているが、その時期に限らずご本人やご家族の意向に変化がみられたり、病気や怪我などによって状況が変化した場合等、その都度計画を見直し、状況に即した介護計画を立て直している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を通して、全スタッフが情報を共有しているが、それぞれの気づきも大切に定期的に話しあう機会をつくり、介護計画作成者はその内容を反映した介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイやデイサービス等を実施していないためGHの多機能性は十分とはいえないが、皮膚科や歯科医師の協力を得て訪問診療を受けたり、訪問マッサージを受けたり、併設の施設で実施しているデイケアやリハビリや行事への参加など様々なサービス提供に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティアには運営推進会議に参加していただき協力関係は出来ている。警察・消防関係にも安全対策等で協力いただき、社協や学校関係者にはボランティアの依頼等で協力していただき、必要に応じてその都度関係機関に協力を依頼して支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人やご家族からの意向があれば、地域包括支援センターや担当ケアマネージャー、サービス事業者と担当者会議を開き、円滑にサービスが開始できるよう支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護の希望は今までなかったが、GHを退所して在宅に戻られた方は多く、その都度管理者や計画作成担当者が中心となって、担当ケアマネージャーや地域包括支援センター等と連携し、ご本人ご家族の意向に沿った長期的な支援をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人ご家族に主治医を決定していただいている。主治医には、ご本人やご家族の同意のもと必要な情報を提供し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	初回入居時と年一回の健康診断時に頭部CTを必ずとっていただき、脳外科の診断やアドバイスは頂いている。近隣の認知症に詳しい医師に相談に行くなど支援しているが、検査や入院治療が困難である現状で、専門医の治療やアドバイスを頂くまでには至っていない。		認知症専門医にアドバイスを受けて治療が受けられるような関係が築けるよう今後も努力したい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設のクリニックと老健に看護師が配置されているため、気軽に相談できる関係ができています。また、けがや急病など急変時の応急処置やアドバイス等も24時間体制で協力してもらっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後も可能であれば他利用者とスタッフが面会に行き、GHでとった写真を持参して枕もとに置き、関係が続くよう配慮している。管理者は治療の経過などご家族や医療機関に問い合わせ、退院に向けての調整を行うことを心がけている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に管理者が終末期の迎え方、救命医療の希望など必ずご家族を通して書面で確認し、全スタッフがその希望を把握している。また、入院時および終末期であると医師が判断した時は、再度ご家族やご本人にその意向を確認し、全スタッフが方針を把握する体制にある。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人、ご家族の意向をもとに、GHとしてできることできないことを明確に伝え、主治医とも相談してその時にできる最善のケアの提供に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを決める際、冷蔵庫の材料を考慮しながら、ご利用者と相談して決めている。食材がない場合は、ご利用者と一緒に近所のスーパーに買い出しに出かける。全員ではないが、炊事が得意な方々と一緒に準備や片付けも行っている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族からの差し入れはもちろん、晩酌を希望する方には、スーパーで好みのお酒を一緒に買いに行き提供したり、カップラーメンやあんぱんなど以前から自宅で食べていた好みのものも、一緒にスーパーへ買いに行き居室でも食べられるよう支援している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレの場所が分かりやすく表示してあるが、ご自分で尿意や便意を伝えられない方については、排泄リズムを把握して定時誘導している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日提供しているため、ひとりひとりの希望に合わせた時間に入浴していただいている。入浴剤を使用したり、季節にあわせて菖蒲湯やゆず湯なども楽しんでいただいている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は、リビングのゆったりとしたソファでテレビをみながらうたた寝される方もあるが、人目が気になる方には廊下や部屋の片隅に設置したソファや、横になれる畳のスペースで安心して休息していただくよう配慮している。就寝時間も、ひとりひとりの生活習慣に合わせて対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	炊事や洗濯、掃除などの家事ができる方以外にも、いけばなや雑巾縫いや誕生会の飾りつけなど得意な分野で活躍できるよう支援し、楽しみごととして、できる力に合わせた働きかけをしている。また、ボランティアさんが話相手や将棋の相手をして、気晴らしの支援もしてくださっている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で財布を持っている方もあるが、ほとんどの方が金銭管理できないため施設で預かり、協力いただけるお店や受診の際はお財布を持って出かけ、支払う時はスタッフが見守っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、ゴミ出し、家庭菜園の手入れ、買い物、床屋など希望にそって出かけられる支援をしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一回は外食や外出として希望の場所や季節に合わせた外出先を提案し、車で出かけている。毎月発行の和合の家だよりでもお知らせしているが、一階エレベーターホールにも当月と次回の外出予定日を掲示してご家族やボランティアに参加を呼び掛けている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	併設のクリニックと老健にある公衆電話を活用し、ご家族や友人への連絡を支援している。年末には、年賀状の作成も支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者には、必ずお茶とお菓子でもてなしをしている。ゆったりと過ごしていただくために、居室へ案内することもあり、気兼ねなく過ごしていただき、いつでも気軽に立ち寄れる雰囲気づくりに心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者が怪我をしないよう体を保護し、身体抑制はしないケアに取り組んでいる。身体だけでなく、言葉の抑制にも留意し、意識してケアに取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、入口付近にセンサーを置くなどして、原則玄関の施錠はしていない。ただし、やむをえず職員が一人になる時間帯でトイレ介助などに入らなくてはならない場合は、施錠することもある。この件についてはその都度ご家族には説明している。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時さりげなく全員の所在を確認しながらケアに取り組んでいる。居室で過ごされている方で転倒のリスクが高い方は、ベット付近にセンサーを置き、センサー音がなったらスタッフがすぐに訪室して、事故を未然に防ぐ努力をしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や漂白剤等誤飲の可能性がある薬品等は、戸棚にしまうか手の届かないところにさりげなく置くなど危険を回避している。個人の私物で危険なものがあれば、ご家族にも了解していただき、お預かりして必要な時に渡して使用できるよう配慮している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフの気づきを大切にしており、危険が予測される場合はすぐに管理者に知らせ、危険を回避する手立てをとっている。ひやりはっと事故報告書が提出された場合は、全員が回覧し周知し事故防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時に備え、マニュアルや本が準備してある。救命救急法の講習も受けているが、やはりいざとなると管理者に連絡し、併設施設の看護師に応急処置を依頼することが多い。		どのような場合も、全スタッフが処置ができるよう救命救急法の再受講や応急処置の訓練も実施したい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年二回昼間と夜間を想定した避難訓練を実施している。今年は、消防署と近隣の住民ボランティアに協力していただき、夜間想定での避難訓練を実施することができた。		今後も地域住民参加型の避難訓練を継続的に実施して行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクが高い方については、スタッフで対応を検討し、管理者よりご家族に説明しご理解を頂いている。ご家族にも協力を依頼したり、ご家族の意向をスタッフに伝えつつ、対応策を検討しながらご本人らしく生活できるよう配慮している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の個別記録や日誌に特変事項を必ず記載し、スタッフは出勤時必ずすべてに目を通し、情報を収集している。状態の変化や異変に気づいたときは、速やかに管理者に報告し、早期に対応することを心がけている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の変更や追加があった場合は、日誌に記載し全員で把握している。薬剤情報があれば、スタッフ全員が参考にし、情報がない場合はインターネット等で調べ周知し、特変があれば管理者に報告相談、主治医に連絡している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排泄チェックを行い体調管理している。便秘の方に限らず、繊維質の多い食材を使ったメニューを取り入れ、水分摂取を促し、毎日の体操はかかさず、健康的な排便に努力し工夫しているが、それでも便秘になる方は主治医に相談して内服薬を処方して頂いている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、全員分口腔ケア用品を洗面所に準備し、その人の能力に合わせ声かけ、見守り、介助をしている。週一回歯科医の往診があり、必要があれば口腔衛生士のケアや指導を受けている。義歯の方も必ず毎食後ケアし、就寝時には薬剤洗浄している。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病等で食事制限の必要な方については、併設施設の管理栄養士のアドバイスを受け、ストレスを感じないように調理方法や調味料で工夫している。リビングのテーブルなどに常時お茶を置き、自発的に摂取できるよう配慮している。自己管理できない方については、時間や量を決めて確実に摂取していただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は、毎年ご利用者職員ともに摂取して予防している。他の感染症についても感染マニュアルに基づいて日ごろから注意して対応している。感染が疑われるときは、すぐに受診して早期の対策に心がけている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防マニュアルを冷蔵庫のドアに貼り、常に注意して調理している。布巾、手ぬぐい、まな板等毎食後に除菌している。食材は、生協から安全食材を取り寄せ、二つの冷蔵庫に小分けして管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにはプランターを設置し、季節ごとにご利用者と花を選び一緒に植えかえている。玄関にはご利用者が活けた花や置物を置き、明るく開放的な空間にし家庭的な雰囲気づくりに努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、懐かしい写真や行事の写真、ご利用者の絵や習字などの作品を飾り、また、季節に合わせた飾り付けやご利用者が活けた花を置き、畳の上にはなじみの道具がいつでも使えるようにおかれ、ゆったりとした空間にソファを設置してあるため、くつろいで生活できている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間がかなり広い為、ソファ、椅子、畳とくつろげるところが三か所あり、各々自分の居心地がよいところで過ごされている。それ以外にも、ソファやイスを廊下や脱衣所に常時設置し、独りでくつろげる場所も確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が今まで使用していた家具や生活用品等を持ってきていただき、ご家族と相談してこれまでの生活習慣に合わせ配置していただいている。ほとんどの居室がかなり広く、トイレ洗面がついているため、夜間も気兼ねせず、自宅とかわらない生活できると好評。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝必ず居室の換気は行っている。室温は、ひとりひとりに聞き、希望に合わせて調整している。共有空間も時間やご利用者の状況に合わせてこまめに調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、洗面所、浴室等共有スペースには手すりを設置しており、段差もなく安全に生活できる工夫がされている。居室も身体能力に合わせて安全に生活できるようご家族と相談して模様替えもしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入口には写真やネームプレートを、トイレや浴室には大きな字で表示し、混乱を防ぐ工夫をしている。また、ひとりひとりの能力に合わせて、できることを忘れない、わかる力を活かせるよう、日々の生活の中でさりげなく支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内には家庭菜園があり、ベランダにはプランターを置き、季節の野菜や花を育てている。また、洗たく物は、ベランダに干し、花のみずやりとともにご利用者と一緒に行っている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当施設から望む田園風景が素晴らしく、春は鶯、夏秋は蝉、冬は雉の鳴き声で目が覚めるほど、心なごむ環境にあります。また、敷地に隣接して家庭菜園があり、農業をしていた利用者様と相談しながら、季節ごとにいろいろな野菜を育て、収穫しては食材として活用しています。採れたての野菜はとても美味しいですよ。また、季節の行事やお祝いごとなどをとても大切にしています。たとえば、新年の初詣・カラオケ新年会、2月の豆まき、3月のひな祭り・お彼岸、4月のお花見、5月の節句・母の日・潮干狩り、6月の父の日、7月の七夕バーベキュー・丑の日、8月の流しそうめん・盆踊り・花火大会・終戦記念日、9月の敬老の日・お彼岸・お月見、10月の運動会・お祭り、11月の紅葉狩り、12月の冬至・クリスマス会・もちつき・おせちづくりなどなど。季節の行事、季節の食べ物、日本の良き風習を全員で楽しんでいます。